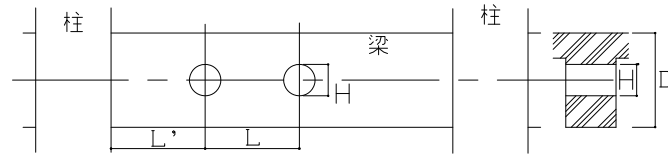
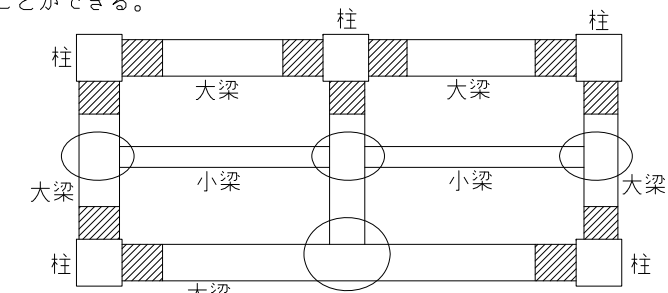
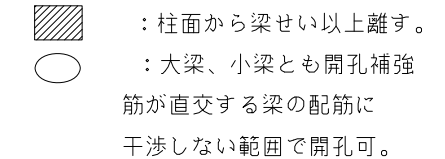
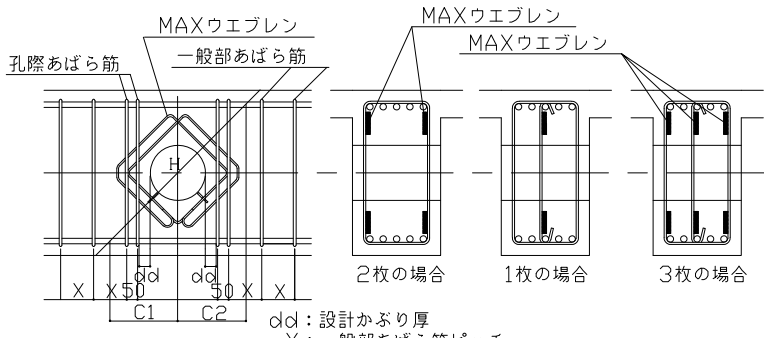
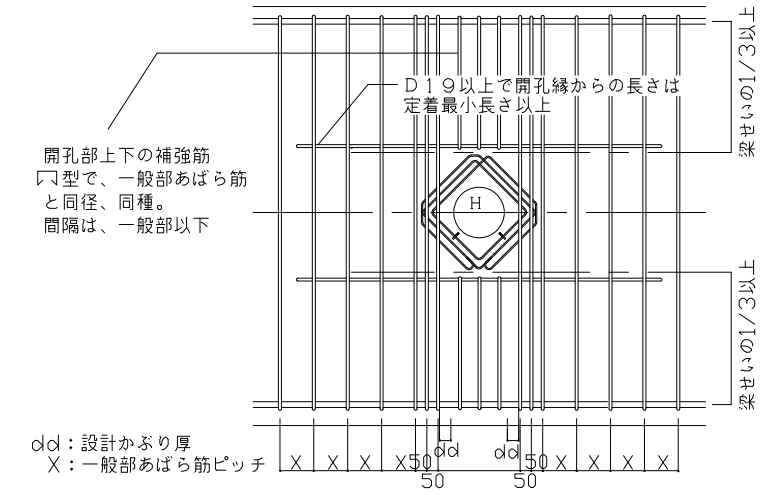
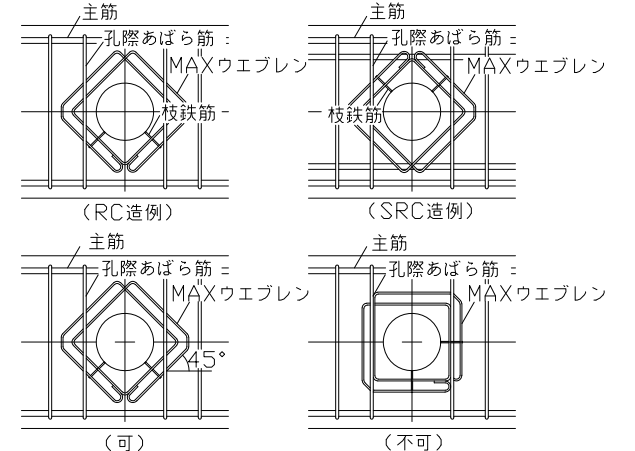


# 梁貫通孔補強材 MAXウェブレン標準仕様書

**テイエム技研株式会社** 本社 〒893-0032 鹿児島県鹿屋市川西町3949 TEL:0994-43-4341 FAX:0994-43-4471  
 東京支店 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-11-4 テイエムビル1階 TEL:03-6661-2621 FAX:03-6661-2622 E-mail:tmgkty@tmgiken.com  
 大阪支店 〒536-0013 大阪府城東区鶴野東3-5-14 TEL:06-6965-1171 FAX:06-6965-1181 E-mail:tmosaka@tmgiken.com  
 福岡支店 〒810-0041 福岡市中央区大名1-9-27 TEL:092-711-7744 FAX:092-741-3343 E-mail:tmgkfukuoka@tmgiken.com

1. 一般事項
- (1) 本仕様書は、(財)日本建築センターの一般評定「BCJ評定-RC0097-06」に適合するように標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。
- (2) 本仕様書に定めなき事項は、日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」及び「建築工事標準仕様書・同解説 (JASS5) 鉄筋コンクリート工事」による。
2. 適用範囲
- (1) 使用材料
- a) コンクリート設計基準強度  $21 \leq F_c \leq 80 \text{ N/mm}^2$
- b) 主筋  
普通鉄筋のうち以下の種類  
SD295A, SD295B, SD345, SD390, SD490  
高強度鉄筋のうち以下の種類  
SD590, SD685 ただし、建築基準法第37条第二号の規定に基づく国土交通大臣認定品
- c) あばら筋  
普通鉄筋のうち以下の種類  
SD295A, SD295B, SD345, SD390  
高強度鉄筋のうち以下の種類  
 $685 \text{ N/mm}^2, 785 \text{ N/mm}^2$  級または  $1275 \text{ N/mm}^2$  級高強度鉄筋のうち、建築基準法第37条第二号の規定に基づく国土交通大臣認定品
- d) 開孔補強筋  
ストロングフープ用棒鋼 (MSRB-0005) KSS785
- (2) 開孔径および位置
- a) 開孔径 H  
あばら筋に普通強度鉄筋を用いる梁  $100 \text{ mm} \leq H \leq 750 \text{ mm}$   
あばら筋に高強度鉄筋を用いる梁  $100 \text{ mm} \leq H \leq 450 \text{ mm}$   
開孔の形状は円形または多角形とし、梁成の1/3以下とする。  
(多角形の場合は外接する円形とみなす。)
- b) 開孔中心間距離 L  
開孔中心間距離は、開孔径の3倍以上とする。また、隣り合う開孔径が異なる場合には、双方の開孔径の平均値の3倍以上とする。
- c) 柱際から開孔中心までの距離 L'  
柱面から梁せい以上離すこととする。
- 
- d) へりあきの最小寸法
- |  |             |
|--|-------------|
| 梁せい $450 \text{ mm} \leq D < 700 \text{ mm}$ | へりあき 175 mm |
| 梁せい $700 \text{ mm} \leq D < 900 \text{ mm}$ | へりあき 200 mm |
| 梁せい $900 \text{ mm} \leq D$                  | へりあき 250 mm |

- e) 梁が交差する場合の梁面から開孔中心までの距離  
開孔補強筋が直交する梁の配筋と干渉しない範囲で開孔を設けることができる。
- 
- 
  
 □ (斜線) : 柱面から梁せい以上離す。  
 ○ : 大梁、小梁とも開孔補強筋が直交する梁の配筋に干渉しない範囲で開孔可。
3. 標準配筋図
- (1) MAXウェブレンの取り付け位置  
MAXウェブレンはあばら筋の内側に取り付ける。  
3枚以上施工する場合は中子筋へ取り付け、開孔補強筋を連続固定できるJ筋(ジョイント金具)により施工する。
- (2) 孔際あばら筋  
孔際あばら筋は、原則として一般部あばら筋と同種、同径、同本数とし、開孔部の両側に1組以上配筋する。位置は開孔縁から設計かぶり厚さを確保した位置に1組目を配筋し、複数組配筋する場合は、その間隔を50mmとする。
- 
- dd: 設計かぶり厚  
X: 一般部あばら筋ピッチ
4. 大開孔時の補強方法  
開孔径が400mm以上で主筋とMAXウェブレンの最外位置との間隔が梁せいの1/3以上となる場合は右図に示す補強を行う。なお、この補強が必要となる条件は(財)日本建築センターの評定時に指導された最低基準であるので、開孔位置等の状況によっては図に示す数値以下であっても補強が必要となる場合がある。従って開孔部の上下補強については設計担当者と協議検討のうえ決定する。
- 
- dd: 設計かぶり厚  
X: 一般部あばら筋ピッチ
5. 施工要領
- (1) 標準的な施工順序
- a) RC造 1) 開孔位置の芯出しを行う。  
(例) 2) MAXウェブレンをあばら筋内に挿入し、枝鉄筋を下側または上側に向け所定の位置に固定する。
- b) SRC造 1) あばら筋の配筋前に、鋼管スリーブにMAXウェブレンを掛け、仮置きする。  
(例) 2) あばら筋を配筋後、枝鉄筋を下側または上側に向け所定の位置に固定する。
- (2) MAXウェブレンの取り付け方向  
MAXウェブレンはあばら筋に対して環状鉄筋が45°になるように取り付け。
- 
- (RC造例) (SRC造例)
- (可) (不可)